

平成27年度の学校評価

学校目標		取組の内容		校内評価		校内評価		学校関係者評価	学校評価
		具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等				
授学教育 改指課程 善導程	知的障害 高等部単 独校、地 域性を生 かした教 育課程を 構築す る。	○3学年そろった形態においての教育内容を検証し、校外のリソースも生かした教育内容の完成形を構築する。	○各学年の教育内容を検証し、社会生活や職業生活に関する外部の専門的な視点を取り入れた教育内容を整理、実践することができたか。	開校から3年間の学習内容を全て洗い出し、データベース化した。 現在使用している教科書と、教科書の候補となりうる図書の目次を洗い出し、データベース化した。	年度当初に設定する年間指導計画や実態を踏まえて工夫する結果(学習内容)、授業案のデータベースとの効果的な活用についての検討は十分ではない。実情に沿った効果的な活用について検討する。	○学習内容を通常の教育課程の目標に合わせて整理してみると、特別支援学校がステップで取り組んでいることがわかる。 ○活用のために、実践の評価などをつけても良い。	○開校から3年間の学習内容を洗い出して整理し、教科ごとにどの時期にどのような内容の学習を行ったのか整理した。 生徒の実態やコースの実状に応じた指導や支援が行われている。今後、このデータの活用方法について具体化していくことが必要である。また、教育課程の目標とあわせて整理し、HP等で発信することにより助言をいただくことも考えられる。		
		(1)自己を客観的に捉え、かつ前向きに課題解決に向かうことができる教育支援体制を整備する。	(1)①生徒が、自らの目標を理解できるような指導や支援をすることができたか。 (1)②生徒が成功体験を積み上げ、自己効力感を育成し、意欲を高める指導・支援をしたか。	(1)①個別の支援計画、個別教育計画等の作成にあたり、年間4～5回の個人面談を計画的に実施した。計画作成にあたっては面談等を通じて得た生徒自身の目標や振り返りを充実させるための可能性を探ることが必要。 (1)②「漢字検定」「ワープロ検定」を実施した。他の検定に関する情報を収集し、生徒が関心を持ち意欲的に取り組める検定のメニューを検討していくことが必要。部活動に伴う校外での活動での安全体制の整備をしていく。	(1)①自身の目標を達成する支援ができるような授業づくりを行うとともに、様々な授業における振り返りを充実させるための可能性を探ることが必要。 (1)②「漢字検定」「ワープロ検定」を実施した。他の検定に関する情報を収集し、生徒が関心を持ち意欲的に取り組める検定のメニューを検討していくことが必要。部活動に伴う校外での活動での安全体制の整備をしていく。	○部活動に、卒業後の余暇スキルを意識した取り組みを入れたらどうか。 ○「特別指導」として別室で指導することは、必ずしも効果的ではない。「危機管理対応指導」としてはどうか。別室ではなく集団に居て、自分がどう指導されるか意識し考えたいという形もあるかもしれない。	(1)①アセスメントや面談を重視し、生徒の実態や特性に応じて、目標や具体的な内容を提示することができた。 (1)②検定だけでなく、学年やコースの状況に応じた学習内容や課題を設定することにより、生徒が意欲的な学習に取り組めるようにした。また、部活動においては、目標を明確にすることにより自発的・自主的に活動できるようにした。		
		(2)指導の充実に向けて、校内で共通理解を図る取り組みを進める。	(2)本校におけるアセスメントの全体像を構想し、個別教育計画システムの全体計画を作成したか。	(2)卒業時の引継についての基本的な対応方法について検討し、入学から卒業までの個別教育計画と個別の支援計画の全容をとらえられた。アセスメント期間とコース別の教育課程編成について議論し、意義を確認し課題を整理した。	(2)生徒の実態をより把握するため、アセスメントの内容や期間について検討していくことが必要である。また、コースを含め教育課程編成の課題を整理し、改善するための方策を具体化していくことが必要である。	○「特別指導」として別室で指導することは、必ずしも効果的ではない。「危機管理対応指導」としてはどうか。別室ではなく集団に居て、自分がどう指導されるか意識し考えたいという形もあるかもしれない。	(2)アセスメントや作業体験、面談等を通して、生徒の実態に応じて目標や課題を設定した。コース選択のみならず、教育課程編成の課題を整理し、どのようなアセスメントが必要なのか検討していくことが求められる。		
(3)人権を大切に、個人への配慮がある集団指導を实践する。	(3)①SSEを軸としたライフスキル獲得のプログラム(よこひなSSE)の実践と研究を実施し、研究のとりまとめを行う。 ②より明示的に、自己および他者を大切にする指導を实践し、自他を尊重する集団を形成する。	(3)①3年間の研究をまとめて実践研究報告会を実施した。近隣特別支援学校、中学校、関係機関から20名程度の参加者があり、授業参観、基調講演、パネルディスカッションなど行った。報告会実施に先立ち、研究報告書を作成し、蓄積したプログラムをプログラム集としてまとめた。 (3)②学年会、学部会、企画会議等において定期的に生徒の状況を確認する他、教職員間の会話等で気になる生徒を取り上げ、指導・支援を行った。いじめアンケートについては、いじめ対策検討委員会に対処しなければならない事案はなかった。生徒を対象とした「学校評価アンケート」の結果、生徒が安心して学校生活を送っていることが読み取れた。	(3)①3年間の成果を踏まえ、SSEの考え方をより理解し、生徒の実態に応じた授業を行うための研修を行っていくことが必要。また、自立支援コースの取り組みをどうするか検討していく。 (3)②生徒の、見えにくいところで進行していく人間関係の緩やかな変化を見極めていくことが必要。「特別指導」の有効な方法や内容を蓄積し、活用していくと良い。生徒に関する情報交換を、会議だけでなく日常的に行える環境を整備していく。	(3)①実践研究報告会では、参加者から授業の評価や今後の指導の参考となる助言をいただいた。研究の成果を踏まえ、SSEに基づいた実践を各学年、コースで具体化していくとともに、必要に応じて研修会を行っていくことは必要と思われる。 (3)②各種会議等で定期的に生徒の状況を把握した他、教職員間の会話等で気になる生徒を取り上げ、生徒に応じた指導や支援を行った。「特別指導」については、名称も含め内容や方法を検討していく。					

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価	
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等			
キャリア教育・進路指導	<p>生徒が卒業後の生活を具体的に想定でき、希望を抱ける進路活動を展開する。</p>	<p>①社会集団の中で役割を果たすスキルを身につけるための指導・支援を実践する。</p> <p>②担任、進路・作業担当が協働し、近隣企業・関係施設と連携する等の地域のリソースを活かした教育活動を広げる。</p> <p>③卒業後の生活をイメージし、希望を持って卒業できるよう定期的な相談及び、ニーズに応じた適宜・随時の進路相談、教育相談を実践する。</p>	<p>①就業支援：企業などの社会集団の中で役割を果たすスキルを身につけるための指導・支援をしたか。</p> <p>②担任と進路・作業担当が連携し、地域のリソースを生かした実践をしたか。</p> <p>③本人と保護者に対して、分かりやすく進路情報を提供し、卒業後の生活をイメージできるよう指導・支援することができたか。</p>	<p>①担任、進路専任及び作業学習担当者（UD）で、生徒の様子や課題、職業適性を見極めるアセスメント結果を実習に向けての個人シートを記入するなどして共有し、進路面談や実習等の指導に活用した。進路作業連絡会を毎月実施し、生徒の作業適性や能力、課題について情報交換した。また、進路専任、UDが中心となり、生徒の実態に応じた受注品や仕事内容を紹介し、校内実習に導入した。各学年コースの校外学習（進路見学）、校内/現場実習（各学年）、高等部1年生一日職場体験、保護者向け進路見学会を企画運営した。</p> <p>②地域の施設や事業所、住民の方から作業や受注品の提供があった。単発イベントの参加型から日々需要のある継続的な作業が増えた。進路開拓では、職員全体で90社の企業に連絡し、13社から実習の可能性の回答を得た。進路専任は、合同面接会やハローワーク等からの就職情報等により新規開拓の企業や事業所と連携を深められた。</p> <p>③進路面談では、3学年を見据えた面談プログラムを検討し実施した。また、十分な進路面談時間を確保し、本人の思いを引き出す面談を実施した。教育相談では、教室に近い相談室3の昼休みの利用が生徒たちに定着し、181件の利用があった。心理士の資格のある教員の特性を生かした面談を実施することにより、担任との協働による生徒指導が充実してきた。相談担当は年度当初に授業に積極的に入り、生徒や担任との関係性づくりや実態把握に努めた。高1教育相談では、生徒にわかりやすいアンケート用紙を作成した。</p>	<p>①進路専任と学年との情報の共有の場がさらに必要と思われる。校外学習の調整や役割分担がスムーズに行えるためにも、学年に進路業務をする担当を置くことが良い。生徒に応じて、受注品や作業内容を開拓していく。生徒の実態に応じた校外学習や現場実習を実施するためにも、進路指導に関わる授業や取り組みを再考し、チーム間の連絡を密にして学部・学年との調整を図る。</p> <p>②各コースで、5作業種の体験ができるシステムをつくるなどの検討をしていく。そのためにも、グループ内で検討し、学部、学年等で具体化していくためのシステムを提案していく。</p> <p>③生徒に向けての日々の教育相談の利用及びニーズの掘り起こし等、教育相談をさらに充実させていくことが求められる。さらに教育相談を充実していくためにも、専任職員の人数や教育相談からシムテム等を検討していく。</p>	<p>○自分らしく納得できる人生を歩めるよう、プロセスを大事にして継続して欲しい。</p> <p>○進路開拓 第1次産業を開拓してはどうか</p> <p>○本当にやりたいことを引き出すことが大事。掘り下げることも難しさはある。そのためにも面談が大切だと思う。</p> <p>○今の指導を継続していくためには、基本を大事にしていくことが必要。志が同じであること。子ども、保護者とのコミュニケーション不全にならないように</p>	<p>①3年間を見通して継続的な指導や支援が行われるよう、年間計画を明確にして体験学習や現場実習、校外学習を実施することができた。また、UD会や進路作業連絡会等を通じて、系統的・継続的な指導や支援が行われるようにした。今後、進路業務がさらに円滑に行われるよう、学年進路担当を配置し役割分担を明確にしていくことが求められる。また、進路担当と担任との情報交換を密にして、生徒の実態に応じた授業や取り組みを実施していく。</p> <p>②UD会や進路作業連絡会等を通じて、系統的・継続的な指導や支援が行われるようにした。担任、進路、作業担当が連携して、生徒に応じた受注作業を開拓することができた。今後、さらに地域の企業や施設と連携した取り組みや派遣作業をおこなっていくことが求められる。</p> <p>③3年間を見据えて、進路面談の時期や面談内容を検討して実施することができた。進路相談等では、生徒の実態やニーズに応じた課題を明確にするようにした。教育相談では、生徒が相談しやすいように環境の整備や情報提供を行った。相談担当を増員することにより、生徒の状況に応じた相談をさらに充実していく。</p>
地域のセンター的機能	<p>インクルーシブな教育を目指した地域との連携による支援体制を整備する。</p>	<p>①各地区の自立支援協議会との協働と、事業所等との情報交換を通し、校内外の児童生徒等に対する支援体制を広げる。</p> <p>②支援教育の推進のため、地域の小学校・中学校等へのコンサルテーション・教育相談を拡充する。</p> <p>③近隣の特別支援学校と連携した夏季公開講座を企画し、地域のニーズに応える情報を提供する。</p> <p>④交流や地域行事への参加、広報活動を通し、本校の教育活動の理解を広げる。</p>	<p>①各地区の自立支援協議会との協働と、事業所等との情報交換を行い、支援連携体制を強化できたか。</p> <p>②地域の小学校・中学校等へのコンサルテーション・教育相談を拡充したか。</p> <p>③地域の学校の教員のニーズを把握し、近隣県立特別支援学校と連携し、特別支援学校の理解推進を目指した夏季公開講座を実施したか。</p> <p>④地域に対して、本校の教育活動の理解を広げることができたか。</p>	<p>①生徒の居住地の自立支援協議会に出席し情報を共有した。特に泉区自立支援協議会とは、福祉と教育が連携を深める企画を共同実施し、また余暇・ボランティア活用情報を発信し、生徒の利用が増加した。学校理解・障害者理解を促進するため、ボランティアの名称をなじみやすいものに変更し、登録者を増やした。企業、福祉事業所、後見の支援制度や特別支援学校の卒業生の講演会を実施し、生徒が卒業後のイメージを持つように工夫した。</p> <p>②泉区内の中学校8校を訪問し、中学校の現状や課題、相談を受ける側のニーズを把握した。各地区で実施される関係会議等に参加し、地域福祉との連携を深めた。</p> <p>③夏季公開講座では、4講座実施し述べ97名が参加した。センター推進協議会横浜ブロック内では、公開講座の企画運営等について協議し、次年度の計画に間に合うよう各校ごとに校内調整を図ることになった。</p> <p>④地域との連携行事であるサマーフェスティバルにステージ発表・販売の他、会場整備やゴミ分別などの美化活動を生徒が実施し、地域の方から高い評価を得た。「よこひな通信」とHPによる情報発信は定期的の実施した。特にHPは昨年より情報発信の回数が増加し、生徒会の委員会活動についての発信も行った。</p>	<p>①センターの機能は、グループ内で完結できるものではなく、学校全体で進めていく意識強化及びシステム作りを図っていくことが必要。地域連携では、進路担当と相談担当の支援連携や調整をさらに密にしていく。また、学年チームとの連絡を強化し、学校全体としてのセンター的機能のあり方を模索していく。そのためにも、各業務を課題や方向性にし、チームとして業務を遂行してけるよう検討していくことが必要と思われる。</p> <p>②特別支援教育の視点(学校としての課題)を伝達できる力を強化する。進路及び福祉サービス等についての知識や仕組み等をわかりやすく説明できる人材を育成する。自立活動教諭の活用を充実させ、校内の教員資源を地域に発信していく。</p> <p>③小中学校の教員の参加を増やすためにも、地域の教員、保護者が関心する講座を検討するとともに、講座の対象を明確にしていく。ブロック内の調整を、単年度で実現することは難しいこともあり、長期的にスケジュール化に向けて準備していくことが必要。</p> <p>④サマーフェスティバルの参加により本校に対する地域の理解が進んでいる。フェスティバル参加の際における地域との調整ポイント、役割分担運営法などの引き継ぎ資料を整理し、効率的に取り組む。</p>	<p>○パン販売は、出店場所やお店のなものにするなどの工夫をして、もっと楽しいものにしてはどうか。</p> <p>○地域の人と共に活動する防災訓練の実施が必要。生徒が支援する側になってもよい。</p> <p>○地域の人が、生徒に助けてもらうという視点があってもよい。</p> <p>○災害時、温かい食事の提供など、可能な設備があると思う。</p> <p>○避難時、校舎内において生徒と地域住民との場所分け等考えなくては。</p> <p>○孤立させしのげば、何とかなる条件の地域でもある。</p>	<p>①生徒の居住地の自立支援協議会に参加し、各地区の取り組みや運営に関わった。各地区の会議においては、情報収集及び情報共有をし、連携や連絡を密にすることができた。今後、学校としてどのように関わっていくのか整理していくことも必要と思われる。校内においては、進路専任と相談担当が連携をとり、役割を明確にして地区の会議等に参加した。今後、多くの職員が地域と関われるよう、システム等を検討していくことも必要である。</p> <p>②泉区内の中学校への訪問し、各地区の関係会議に参加した。中学校のニーズからどのような支援や関わり方でできるか整理し、センターの機能がより充実するよう検討していく必要がある。</p> <p>③小中学校の教員向けの公開講座を実施した。参加者を増やすためにも、ニーズ等を把握して、講座内容や講師を検討することが必要であろう。</p> <p>④サマーフェスティバルに参加し、地域との交流を深めた。また、地域の施設や関係機関の催し物に参加し、本校の取り組みを紹介し、学校への理解を深めた。今後も地域の理解促進に向けて、計画的に地域と関わっていくことが良い。</p>

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
学校運営・ 学校管理	(1) ①教育環境の充実に 向けた課題整理、調整等 を計画的に適切に行う。 (1) ②限られた時間の中 でもできる研究・研修シ ステムを検討する。 (1) ③養護教諭、栄養教 諭と連携し、学校安全を 確保する体制を充実させ るとともに、生徒の実態 や課題に応じた食育指導 や健康安全指導等を展開 する。	(1) ①教育環境の充実に 向けた課題整理、調整 等を計画的に適切に行 えたか。 (1) ②限られた時間の中 で、効率的・効果的な 研究・研修ができるよ うなシステムや方法を 検討することができたか。 (1) ③生徒の実態や課題 を明確にし、食育指導 や健康安全指導等の内 容や方法を検討するこ とができたか。	(1) ①予算検討委員会を開催し、優先順位に従い整備を進 めた。特にPC室及びICT機器の整備を進め、授業や部活 などで利活用が増えた。ICTを活用する上での共通の学 習内容や機器等の使用のルール作りにも取り組んでい る。 限られた保管場所を有効利用するため学校全体の物品保 管場所を見直し効果的に配置した。懸案のグラウンド用 倉庫も設置でき、物品利用の効率化が図れた。 毎月の点検時に挙がる施設改善について速やかに対処で きた。 (1) ②年間で計画された研修はほぼすべて実施することが できた。交流等による異校種転任者への研修も実施し た。 (1) ③養護教諭が2名体制となり、生徒への対応や検診業 務において、より適切な対応ができるようになった。 食生活に関するアンケートを養護教諭、栄養教諭が作成 し結果を報告した。食育・保健・相談研修会を保護者対 象に実施と合わせ、食育・健康増進にむけての家庭での 役割を発信した。	(1) ①教室配置と施設活用について、時間割に応じ て効率的に活用できるよう工夫することが必要。 ICT機器を活用した授業を行うためにも、基本的な 情報教育の内容、機器や施設の種類、ルールの整備 について、職員全体に提示し、共通理解を図ることが 必要。PC室以外での情報機器の利用に向けて、 システムやルールを検討していくことが求められて いる。 (1) ②学校全体の年間研修計画を見直し、教員の状 況に応じた研修を効果的に行うとともに、研究・研 修時間を確保していくことが必要。人事交流等によ る異校種転任者への研修内容・方法を検討してい く。 (1) ③心と体の発達をふまえた指導を必要とする ケースが増加していることもあり、引き続き個別の ケースへの丁寧な対応を行い、必要に応じてグルー プ別指導等を学年と共に検討していくことが求めら れている。	○地域の人と共に活動 する防災訓練の実施が 必要。生徒が支援する 側になってもよい。 (再掲) ○地域の人が、生徒に 助けてもらうという視 点があってもよい。 (再掲) ○災害時、温かい食事 の提供など、可能な設 備があると思う。 (再掲) ○避難時、校舎内にお いて生徒と地域住民と の場所分け等考えなく ては。(再掲)	(1) ①教育環境の整備に努めた。物品の整 備は、グループリーダーや関係職員と連 携して、予算内で使用頻度・必要度を吟 味し計画的に行った。ICT機器の運用 については、基本的な情報教育の内容を 踏まえつつ、機器や施設設備の種類、 ルールについて、職員全体に提示し、共 通理解を図ることが必要と思われる。 (1) ②研修の全体計画を作成、効率よく実 施することができた。各教員の経験等の 状況や職務上の必要度を検討し、整理し て計画的に行うことが良いと思われる。 (1) ③感染症やアレルギーの対策では、関 係職員と連携して、マニュアル等に応じ た対応を行うことができた。配慮を必要 とする生徒については、教職員や関係機 関と連携して対応していくことが必要で あろう。
	(2) ①地域と連携した防 災体制を検証する。 (2) ②各業務の適格な実 施を把握するための チェックリストを作成す るとともに、ヒヤリハ ットを生かした、事故を防 ぐための業務体制を随時 検証する。 (2) ③職員の自己啓発活 動を中心とした、教育公 務員としての意識向上活 動を推進する。	(2) ①地域防災拠点との 連携を意識した防災体 制づくりに取り組めた か。 (2) ②各業務の的確な実 施を把握するための チェックリストを作成 し、事故を防ぐための システムや方法を検討 することができたか。 (2) ③職員に自己啓発活 動を促し、教育公務員 としての意識の向上を 図ることができたか。	(2) ①保護者が参加する引き渡し訓練を実施した。地域や 消防署と連携して各学年の防災教育を実施し、3年間の 内容や流れをまとめた。特に3年生には、AEDの使用 方法を学習する機会を設けた。地域防災拠点運営委員会 の実施する会議、訓練等に職員が参加し、発災時の本校職 員の動きについて、地域の方と共有した。緊急地震速報 受信装置が設置され、より実践的な防災体制の整備が進 んだ。また、発災時の停電を想定した避難訓練、職員向 けDIGを実施した。 (2) ②各グループ等の業務内容が3学年揃った状況に応じ ているか等について検討した。業務によっては、チェッ クリストを作成するまでには至らなかったものもあった が、問題点や課題を明確にしようとした。 (2) ③職員会議において、資料等に基づいた校長講話を実 施し、時期等に応じた職務が遂行できるようにした。夏 季休業中における自己研鑽研修の紹介と奨励。事故不 祥事防止会議活動計画に基づいて、研修や点検を行っ た。	(2) ①職員教生生徒教が増加する中、防災訓練での課 題を整理し、本校の状況に応じた防災体制を見直し ていくことが求められる。地域の防災体制と本校職 員の関係についてより詳細な動きを検討し、学校防 災マニュアルを改良していくことが求められる。災 害発生時の多様な想定を考慮した、実践的な防災訓 練を引き続き実施する。 (2) ②グループにおいては、今年度の評価をもとに 各グループの業務内容や課題の整理を行う。企画会 議等では、各業務のチェックポイントの確認をする とともに、チェックリスト作成に向けた検討。 (2) ③各研修の課題を整理し、職員に応じた研修会 を実施していく。ヒヤリハットに基づいた課題と改 善策の整理を行う。状況に応じた不祥事ゼロプロ グラムを作成する。会議等において、生徒の状況や事 故等の情報交換を行い、課題や改善策を全職員で確 認する。	○孤立させしのげば、 何とかなる条件の地域 でも。(再掲) ○限られた予算の中 でよく取り組んでいる。 ○原点(開校以来の取 り組み)を大切に、基 本に忠実に取り組んで 欲しい。 ○3年経ち、今後人の 変化もあるだろうが、 メンバーが変わっても 継続して欲しい良さが ある。生徒に「種をま く」なら、先生の「心 (土)を耕す」ことを 継続して欲しい。	(2) ①災害発生時のさまざまな状況を想定 し、避難訓練を実施した。今年度は、保 護者の協力のもと引き取り訓練を実施 し、混乱なく無事に訓練を終えた。地域 の避難訓練や夜間訓練にも、引き続き教 員が参加した。地域の避難場所に指定さ れている本校の状況に応じた防災体制 を見直していくことが必要と思われる。 (2) ②各グループ等の業務内容が3学年 揃った状況に応じているか等について検 討した。今年度の評価をもとに各グルー プの業務内容や課題を整理していくと良 い。 (2) ③職員会議等において、資料等に基づ いた校長講話を実施し、時期等に応じた 職務が遂行できるようにした。ヒヤリ ハットに基づいた課題と改善策の整理を 行っていくことが必要と思われる。